

平成27年（2015）の靴の記念日（3月15日）に、『時代を彩った名靴・流行靴30選』を企画した「シューフィル」の城さんが、「五代遡ると弾直樹に辿り着きます」といわれたその方に、「靴の歴史散歩」（浅草皮革産業の祖、弾直樹）をお送りしたと聞いて、大変ありがたく思った。一日も早く、お会いしたい人物である。

城さんの話によると、相手の方も、私に会って弾慎平周辺の話を知りたいということだったので、お会いする段取りの一切を城さんに一任し、待つことにした。

弾直樹の興した、浅草皮革産業の現況を知る上でも、ものづくり工房併設の研修センター、皮革産業資料館が最適ということで、お会いする場所が決まった。

ちょうどその年、5月29日（金）30日（土）31日（日）の三日間が、施設公開日であったので、その最終日ということになった。

待ちに待った5月31日、めでたく資料室でお会いすることができた。意外にもお若い方で、働き盛りの五十歳ぐらいの方とお見受けした。

名刺交換した名刺によれば、光学器械メーカーの総務部次長とあった。（以後I氏と呼称したい）戸籍謄本を示しながらのお話によると、初代直樹の四男慎平氏は、二男二女の子があり、その長女寿美江が嫁いだ家系ということで、「弾慎平の長女寿美江は、私の祖母です」に繋がるわけである。

これまでに皮革関係にご縁は、と伺ったら「父親が長年M皮革に勤めていた」ということであった。

「古いものでこんなものがあります」といって、台紙に貼られた名刺判の写真を見せていただいた。台紙には「渡支記念」の金文字が刻印されていた。6、7名の集合写真だったが、慎平氏がどの方かもよく分からなかった。日本皮革時報社の「創刊三十周年記念号」には、弾慎平が中国に出張中で、編集者が秘蔵の文献に接することができなかったということが掲載されているが、それを裏付ける資料であることは間違いないので、うれしい出会いである。

Iさんとはこれからもお会いして、弾家のルーツを探る勉強をしたいということなので、これからのがたのしみである。

掲載の写真は『浅草ものづくり工房施設公開』のチラシである。

